

## 小学校 図画工作科 部会

部会長名 川崎町立真崎小学校 校長 小西 良平  
実践者名 川崎町立真崎小学校 教諭 大石 莉乃

### 1 研究主題

児童にとって「安全・安心」な居場所づくり・絆づくりの充実をめざす図画工作科学習指導  
～教師の振り返りポイントを関連付けた「真崎小鍛ほめメソッド」の活用を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 本県の動向から

本県では、文部科学省の指針を踏まえ、令和3年12月に「福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン」を策定し、不登校を生まない取組と不登校児童生徒への支援が図られている。不登校児童生徒の支援策として、いわゆる「学びの多様化学校」の設置が予定されており、不登校児童生徒に関する取組（支援策）が進められている。

また、令和5年の調査では、本県における公立小中学校の不登校者数は、合計17,859人と5年間で約2.5倍に増加しており、早急な対応が求められている。一方で、令和4年12月に「生徒指導提要」が改訂された。この「(改訂版)生徒指導提要」では「安全・安心な居場所づくり」「誰一人取り残さない教育」が強く打ち出されている。

このような動向を受け、単なる学力向上だけでなく、児童一人一人が「ここにいてよい」と実感できる人間関係の「居場所づくり・絆づくり」を基盤とした学校づくりが求められている。このような背景を踏まえ、児童にとって安全・安心な「居場所づくり」と信頼関係を深める「絆づくり」をめざした図画工作科の学習指導を行うことは意義深いものであると考える。

#### (2) 学校教育目標から

本校では、「地域を愛し、確かな学力・豊かな心・たくましい心と体を自ら伸ばそうとする児童の育成」という学校教育目標のもと、「地域の人・もの・ことへ感謝できる子」「自他の考えを活かし、愉しく学び合う子」「相手の立場を認め、互いに協力する子」「目標に向かって、最後までやりぬく子」を目指す児童像としている。

本校の児童は明るく素直で、どんなことにも真面目に取り組むことができている。しかしながら、「自ら学びに向かう力の不足」「基礎学力の向上と活用力」「遅刻等による不登校兆候の増加による学力格差」が大きな課題である。これらの克服のためにも「安全・安心な居場所・絆づくり」の充実は必要不可欠である。

本年度の校内研究では、算数科・社会科・理科の学習における子どもたちの変容を検証しているが、図画工作科においても「安全・安心」な居場所づくり・絆づくりの充実をめざす授業づくりを行うことで、学校教育目標の達成を目指すことができると考える。

#### (3) 昨年度までの本校の実践から

本校は令和4年度から令和6年度までの3年間「学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト」の研究指定を受け、実践を積み重ねてきた。これに並行して令和5年度から令和7年度には福岡県重点課題研究指定・委嘱を受け、重点課題「生徒指導提要(改訂版)」の内容を踏まえた教育活動についても研究を進め、令和7年11月に最終報告会を開催したところである。

これらの研究の成果から、児童アンケートでは「自分にはよいところがあると思う。(自己肯定感)」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。(教師からの承認)」「人の役に立つ人間になりたい。(社会的自立)」等の項目で大きな伸びがみられるようになってきた。

本校がこれまで積み重ねてきた「真崎小鍛ほめメソッド」の実践や「安全・安心」な居場所づくり・絆づくりの取組をもとに図画工作科の学習指導を行うことは、児童理解と支援の在り方を見つめなおすという点においても大変意義深いものであると考える。

#### (4) 児童の実態から

本学級の児童は、特別支援情緒学級に在籍する3年生である。初めての人やもの、環境に慣れることには時間がかかるが、興味があることには進んで挑戦し、最後までやり遂げることができる。

図画工作科の学習では、活動に対する興味は高く、いつも新しい素材との出会いを楽しみにしている。また、普段から空想することも好きで、空想をもとに自由に絵に表すことが好きである。

しかしながら、昨年度まで不登校児童であったため、材料や用具を扱った経験が少なく、はさみやのりなどの用具の適切な使い方が習得できていない。そのことから、用具を使った活動を苦手としており、自分の活動や表現にも自信を持てずにいる。

児童への聞き取りでも「図工は好きですか」の問いかけに対し「好きだけど思い通りにならない」「みんなのように上手に作るができない」と自信のなさから、ネガティブな発言も見られた。

よって、用具の使い方を指導するとともに、児童が自信をもって楽しく活動できる授業づくりが必要だと考える。また、そのためには、児童に寄り添ったり、活動の中でも頑張っている過程を具体的に褒めたりと、安心できる環境づくりを心掛けていきたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

### 3 主題の意味

#### (1) 「安全・安心な居場所づくり・絆づくり」とは

本研究でめざす「安全・安心な居場所づくり・絆づくり」とは、すべての児童の自分らしく安心して過ごせる環境の中で、互いの存在や考え方を認め合い、学び合い、つながりを実感できる関係性を築くことである。

これは、本校が目指す子ども像で掲げる「自他の考えを活かし、愉しく学び合う子」の育成と深く関わっている。すなわち、児童が自分の考えを安心して表現できること、そして他者の考えに耳を傾け、共に学び合う体験が積み重ねられることが「安心できる居場所」や「豊かな絆」の土台であるのとらえる。したがって、「安全・安心な居場所づくり・絆づくり」は児童が対話的・協働的な学びの中で人間関係を育み、自己肯定感や社会性を高めていくための不可欠な教育基盤であると言える。

#### (2) 教師の振り返りポイントに関連付けた「真崎小鍛ほめメソッド」の活用とは

「教師の振り返りポイント」とは、川崎町の小中学校で共通して取り組んでいる児童の安全・安心な居場所づくり・絆づくりをめざす上で、教師が児童の変化を見逃さないために作成されたチェックリストのことである。【資料1】

この中の「授業中のポイント」【資料2】の視点を「真崎小鍛ほめメソッド」【資料3】に位置付け「①目標設定の活動 ②挑む活動 ③振り返り・認め合う活動」の3つの活動サイクルの確立や自己選択の場の設定を通して、本研究でめざす児童の姿へと近づけていく。

また、本研究を通して、教師主導の授業から児童主体（教師は伴走者）の授業への転換を図る

【資料1】

**川崎 ACTION3.0!!**  
**アクトン3.0**

みんなでできる！  
かならずできる！

**ステージ0**

**安全安心な居場所づくりのアクション**

- 子どもとの話は「受容・共感・傾聴」で
- 「承認・称賛・励まし」の声かけを
- みんなですんで「オアシス運動」あいさつを

**ステージ1**

**未然防止のアクション**

- 笑顔で出迎え、顔を見ながら言葉かけ
- 一人ひとりの成長やいいところを伝えて
- いつでもSOSをキャッチできる手立てを

**ステージ2**

**早期発見・早期対応のアクション**

- こまめな家庭連絡・家庭訪問で保護者と信頼関係づくり
- 小さな変化・ささいなことも情報共有
- 気になることにはチームを組んで素早く対応

**ステージ3**

**きめ細かで継続的な支援のアクション**

- マンツーマン個票で子どもの状況を見える化
- 専門家・関係機関と協働して誰ひとり孤立させないつながりづくり
- 「できないこと」より「できたこと」に目を向けて

-60-

【資料2】

**教師の“振り返りポイント”**

**【全般を通してのポイント！】**

- ▲ 気分・感情や場の雰囲気によって、児童生徒の心を傷つける言動をしていませんか。
- ▲ 特定の児童生徒ばかり死んだり褒めたりしていませんか。
- ▲ 児童生徒と話し合う時間を意図的に増やそうとしていますか。
- ▲ 連絡簿・生活ノート・作業簿に、自己存在や共感的人間関係につながるコメントを必ず入れていますか。
- ▲ 放課後等に校内や教室を巡回して、落書きや器物損壊がないか確認していますか。

**【朝のポイント！】**

- ▲ 児童生徒の登校時刻、形態等を把握し、それに応じた温かい対応ができていますか。
- ▲ 教師の側から「おはよう」の声かけをし、児童生徒の心機状態を把握していますか。
- ▲ 健康観察で、一人一人を視診するとともに、気になる子への声かけをしていますか。
- ▲ 朝の会で、一日の子定年さんとお話し、目的を持った生活をしようとする意欲をもたせていますか。
- ▲ 児童生徒で欠席者の理由を伝え、教室の温かい迎えや声を、児童生徒一人一人に伝える工夫をしていますか。

**【授業中のポイント！】**

- ▲ 児童生徒が否定するような言葉や態度で授業を始めていませんか。
- ▲ 学習準備・学習態度ができていない児童生徒に対し、原因を探り、援助・指導をしていますか。
- ▲ 教師の態度と合う考えや論議を大切にしながら学習にしていますか。
- ▲ 学習の遅れがちな児童生徒も、学習中に活躍できる場を保障していますか。
- ▲ 児童生徒の多様な考えが発揮できる場、自己決定できる場を意図的に設けていますか。

**【休み時間のポイント！】**

- ▲ 児童生徒が遊び仲間を作って遊びに行く様子を観察していますか。
- ▲ 遊びに入れない児童生徒をそのままにしないで、いっしょで遊ぶことができるようにする働きかけをしていますか。
- ▲ 教室にいる児童生徒と話したり、気になる児童生徒への声かけをしたりしていますか。
- ▲ 「これは遊びです。」という児童生徒の考えを聞き取っていませんか。
- ▲ 児童生徒の表情などから、休み時間の過ごし方を把握しようとしていますか。

**【昼食時間のポイント！】**

- ▲ 給食当番の児童生徒が役割分担を決めるとき、その決め方を把握していますか。
- ▲ 班に入って食卓しながら、一人一人の児童生徒を把握していますか。
- ▲ 何々の児童生徒の備前・量・進捗等の様子を把握しようとしていますか。
- ▲ 後片付けは、児童生徒に任せ、その様子を最後まで見守っていますか。
- ▲ 給食の準備中に、全員が教室にいることを確認していますか。

**【清掃時間のポイント！】**

- ▲ 児童生徒に任せている場合でも、分担や配分の方法を把握し、適切な指導・助言をしていますか。
- ▲ 清掃ごころから、児童生徒と一緒に清掃する機会を持っていますか。
- ▲ 自分の担当の清掃区域、いつか分かれていく場合、担当の清掃区域を必ず一回は見回りをしていますが、その際、巡回指導は実施されていますか。
- ▲ 清掃を終えている児童生徒を指導する機会以上に、一生懸命清掃している児童生徒に「頑張っているね」「ありがとう」等の声かけをしていますか。
- ▲ 清掃道具の最後まで様子を観察し、最後まで頑張った児童生徒に対してねぎらいの声かけをしていますか。

**【帰りのポイント！】**

- ▲ 一日の生活を振り返らせ、自己を見つめさせる工夫をしていますか。
- ▲ 良かったこと、うれしかったことなどを称賛し合う場を確保していますか。
- ▲ 教師から見て一日の生活で良かったこと、感謝すべきことを話し、明日への意欲をもたせようとしていますか。
- ▲ 帰りのあいさつをする時、児童生徒の表情を素早く観察し、喜ばれた変化がないか確認していますか。
- ▲ 一人一人の児童生徒に声をかけたり、握手したりして、別れのあいさつをしていますか。

【資料3】

「真崎小贈りめゾツドの行い方」(2025)

目標設定の活動	子どもの活動	支援のポイント【贈りめアンケートの項目】
<p>「得意な活動や体験を基に見出しや目標をかなえるための計画を考える。」</p> <p>「ちょっと難しいことにチャレンジしよう。」</p> <p>「めあて」</p>	<p>・「得意な活動や体験を基に見出しや目標をかなえるための計画を考える。」</p> <p>「やってみよう」とは何かですか。</p> <p>「ちょっと難しいことにチャレンジしよう。」</p> <p>「めあて」</p>	<p>○目標(めあて)をつくる活動で、「贈りめ」を乗り越えることが意識されているか。</p> <p>また、必要感をもっているか。</p> <p>【項目16】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で、目標や計画を立てて勉強している。</li> <li>○自分で課題を解決する活動で、既習の内容や方法を基にして見出しや計画を考えているか。</li> </ul> <p>「どんな方法で解くそうですか。」</p> <p>「自分の目標と計画を立てることができたね。」</p>
<p>「試行錯誤や練習を繰り返し、目標をかなえようとする。」</p> <p>「自分で決められたね。」</p> <p>「(グリッド)」</p> <p>「粘り強いね。」</p> <p>「(他者との協働)」</p> <p>「友達と協力できたね。」</p>	<p>・試行錯誤や練習を繰り返し、目標をかなえようとする。」</p> <p>「自分で決められたね。」</p> <p>「(グリッド)」</p> <p>「粘り強いね。」</p> <p>「(他者との協働)」</p> <p>「友達と協力できたね。」</p>	<p>○真の意味での自力解決になっているか。</p> <p>【項目1】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組んでいる。</p> <p>「いい方法だね。」</p> <p>【項目11】ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。</p> <p>「最後まで！」</p> <p>【項目17】・学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。</p> <p>「新しいアイデアが浮かんだね。」</p>
<p>「振り返る活動」</p> <p>「すばらしい！」</p> <p>「次はどうしたい？」</p>	<p>・目標をかなえようとした過程を振り返って、目標を乗り越えられない原因や課題点を明らかにするとともに改善案を考える。」</p> <p>「すばらしい！」</p> <p>「みんなのためになった。」</p> <p>「次はどうしたい？」</p>	<p>○学び合う活動において、「考えのよさや不十分さの振り返り」ができていないか、解決できなかった(できた)理由を説明することができたか。</p> <p>【項目6】・授業などで「わかった」「できた」と感じて、うれしいと思ったことがある。</p> <p>「今日チャレンジできたことは？」</p> <p>「「できた」「わかった」「設立った」」</p>

【授業中のポイント】

- ① 児童の多様な考えが発揮できる場、自己決定できる場を意図的に設けていますか。
- ② 学習に遅れがちな児童も、学習中に活躍できる場を保障していますか。
- ③ 誤答を大切に学習にしていますか。

#### 4 研究の目標

教師の振り返りポイントを関連付けた「真崎小鍛ほめメソッド」の活用を通して、児童にとって「安全・安心」な居場所づくり・絆づくりの充実をめざす図画工作科学習指導の在り方を究明する。

#### 5 研究仮説

図画工作科の学習指導において、次のような手だてをとれば、児童にとって「安全・安心」な居場所づくり・絆づくりの充実をめざす学習活動になるであろう。

- (1) 児童の制作意欲、用具や材料への関心を高めるため、技法を用いるための道具や材料を複数用意する。
- (2) 児童の構想力や表現意欲を高めるため、教師自身も一緒に作品作りをする。
- (3) 児童に達成感や成就感を味わわせるため、振り返りを発表させる場を設定し、内容に応じた賞賛を行い、よさを価値づける。

#### 6 研究の計画

単元	カラフルねん土でマイグッズ	総時数	3時間	時期	10月
単元の目標	<p>○これまでの経験を活かし紙粘土に色を付けて形づくりながら、使って楽しいものを工夫して表している。(知識及び技能)</p> <p>○カラフル粘土のできる形や色の感じやイメージから、使って楽しいものを思いつき、どのように表すか考えている。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>○つくる喜びを味わい、カラフル粘土で使って楽しむものをつくる学習活動にすすんで取り組もうとしている。(学びに向かう力・人間性)</p>				

次	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)
1	○空き容器から作りたいものをイメージし、容器を自己選択することができる。	○事前に集めた空き容器から、作りたいものをイメージし、容器を選択する。 ○設計図を作成する。	○空き容器やカラフル粘土を組み合わせて、どのようなものが作れるか話し合い、考えを広げる。
2	○カラフル粘土の作り方を理解し、カラフル粘土をつくったり材料に触れたりしながら、作りたいものを考える。	○紙粘土に絵の具で色をつけ、カラフル粘土を作る。	○白い粘土に絵の具を混ぜ、カラフル粘土を作ってみせることで、作り方を捉えさせる。作る際の工夫や注意点を伝える。 ○手が汚れることが苦手な児童に対して安心して活動に取り組むことができるように手袋を準備する。
3 本時	○作りたいものに合わせて粘土の色や材料の組み合わせを工夫して、作品をつくることができる。  ○作品を見せあい、互いの	○カラフル粘土と空き容器を組み合わせて、作品を作る。 ・空き容器にカラフル粘土をつけて、形をつくる。 ・カラフル粘土で作った飾りをつける。  ○お互いの作品の素敵だと思	○児童が様々な材料を試すことができるように、色々な材料を準備しておく。 ○児童のイメージが広がるように、教師も1つ作品を作り、互いの作品の良さや感じたことを伝え合う。 ○自信を持って活動させる

	よいところを見つけ合いながら振り返ることができる。	うところ、工夫しているところなどを見つける。	ために活動を展開させたり、作り変えたりしているところを賞賛する。
--	---------------------------	------------------------	----------------------------------

## 7 指導の実際

時	教師の働き方	児童の反応
1	<p>○教科書の「カラフルねん土でマイグッズ」を見せ、作るもののイメージを持たせた。</p> <p>○事前に準備した空容器から作りたいものをイメージさせた。</p> <p>○イメージを広げるため、設計図を作成させた。</p>	<p>○空き容器と紙粘土でできていることに気づき、作ってみたいという活動への意欲を高めていた。</p> <p>○児童は最初「先生が決めて」と何を作るのか、悩んでいる様子だった。しかし、一緒に1つ1つの容器をみて「これは〇〇の形みたいだね。」と対話することで「花瓶を作りたい」という思いをもち、空き容器を自己選択することができた。</p> <div data-bbox="770 952 1182 1258" data-label="Image"> </div> <p>【写真1 空き容器を選択する児童】</p> <p>○設計図をかいているうちに、アイデアが膨らみ、活動への意欲を高めていた。</p> <div data-bbox="758 1435 1209 1706" data-label="Image"> </div> <p>【写真2 児童のかいた設計図】</p>
2	<p>○教師がカラフル粘土を作って見せ、混ぜ方や、混ぜる絵の具のおよその量をつかませた。</p>	<p>○初めは、紙粘土に触ることに抵抗があったようだが、手袋を渡すと、安心して楽しそうに紙粘土をこねてみたり、伸ばしてみたりしていた。</p> <p>○カラフル粘土を作りながら、混ぜる色の変化や紙粘土の感触を楽しむことができていた。</p>

		 <p>【写真3 カラフル粘土を制作している様子】</p>
<p>3 本 時</p>	<p>○カラフル粘土と空き容器を組み合わせて、作品を制作させた。</p> <p>○児童のイメージが広がるように、教師も一緒に1つ作品を制作した。</p> <p>○教師とお互いの作品を見せあい、互いの良いところを言い合うとともに、自身の頑張ったことや次にやってみたいところを振り返らせた。</p>	<p>○設計図をあらかじめ制作していたため、スムーズに取りかかる事ができていた。また、ビーズを付け足したり、カラフル粘土を新たに作ったりと活動を展開させる様子が見られた。</p>  <p>【写真4・5 制作している様子】</p> <p>○「容器に粘土をはるところを頑張った」「ビーズがなかなか付かず難しかった」と振り返りをする事ができていた。また「次は花を入れたい」と次時の活動への意欲を高めていた。</p>
<p>4</p>	<p>○お花を入れて完成させたいという、前時での本人の思いから、モールを使って花を制作させた。</p> <p>※計画段階ではなかったが、本人の思いにより、第4時を設定した。</p>	<p>○母親の好きな色を想像しながら、楽しんで制作することができた。</p>

## 8 研究のまとめ

今までは、自信の無さや失敗を恐れて、自己決定・自己選択する事を苦手とする姿があったが、「自分で選択し、行動できた」という小さな成功体験を積み重ねて欲しいと思い、今回は自己選択・自己決定をする場を2つ設定した。

まず、1つ目は前時までの活動である。前時までに様々な形や大きさの容器を準備させた。そして、自分が作りたいもののイメージをもとに容器を選択させた。初めは、悩んでいる様子だったが、選択肢を示したり、考えを整理する時間を与えたりしたことで、自分で空き容器を選択し

空き容器から何を作るのか自己決定することができた。自分で自己選択・決定したことで、愛着が湧き最後まで生き生きと楽しんで活動する様子が見られた。

2つ目は、本時での活動である。本時では、事前にかかせたイメージ図から、更に活動を展開し、様々な材料を試すことができるように、ビーズやモールなどの装飾、またヘラや伸ばし棒などの道具を準備した。用途に合わせて自分で選択し色々な材料を表現することができていた。

また、本児童は普段生活する上で、初めてのものに触れたり、土や泥に触ったりすることに抵抗がある。そこで、児童が安心して楽しく活動に取り組むことができるように、事前に手袋を用意した。初めは、紙粘土に触ることに少し抵抗している様子だったが、手袋を渡すと、安心し、楽しそうに感触を楽しんだり、伸ばしたりする姿が見られた。特に、特別支援学級の授業では、児童が楽しく活動するためには、まず一人ひとりの困り感に目をむけること、今回は感覚特性への配慮など安心できる環境づくりが必要不可欠だと改めて感じることもできた。

振り返り・認め合う活動では、達成感や充実感を味わわせるために、活動についてがんばったところや難しかったところ、次にやってみたいところを尋ねた。がんばったところや難しかったところについては「容器に粘土をはるところをがんばった」「ビーズがなかなか付かず難しかった」と自分の言葉でしっかりと振り返ることができた。そして、次にやってみたいことについては「できあがった花瓶に花を入れたい」という言葉が返ってきた。できあがった作品から更に展開したいという本人の言葉を聞き、図画工作科への意欲の高まりを実感でき、嬉しく感じた。それを受け、4次は計画していなかったものの、本人の気持ちを尊重し、4次ではモールを使って花を作る計画を立てた。ここでは、本人の「やってみたい」という主体性を尊重し柔軟に対応できたことで、本人も出来上がった作品を見て、より達成感を味わうことができたのではないかと考える。また、最後には児童から「今日の活動は100点満点」という言葉も聞くことができた。

今回、児童が安全・安心できる環境づくりを重視することで、活動を行う上で、児童の気持ちを否定せず寄り添ったり、努力している様子を具体的な言葉で褒めたりすることを心掛けた。これらの結果から、児童も自分の作品づくりに自信をもち、最後まで笑顔で活動する様子が見られた。これからも、引き続き児童にとって安心できる環境づくりを心掛けるとともに、児童が図画工作科を楽しみ、自分から「やってみたい」と思うことができるような授業を展開していきたいと思う。

## 9 成果と今後の課題

### (成果)

- 粘土に触るのが苦手な児童に対し、手袋を用意したことで学習のバリアを取り除くことができた。
- 教師が押し付けず、児童に自己決定させながら進めることができたので、児童にとって「やった感」が生まれ、達成感を味わわせることができた。
- 材料の種類を複数準備していたので、児童が取捨選択しながら活動することができた。
- がんばったところや次にやってみたいことなど、振り返りを行うことで、自分の作品への価値を深めることができた。

### (課題)

- 紙粘土の伸ばし方などの技術的な指導をもう少し取り入れるべきだった。
- 鑑賞と交流の違いが明確ではなかったため、きちんと目的を整理したうえで設定するべきだった。

### ◎ 参考文献

- 小学校学習指導要領 図画工作編 文部科学省